タクト

◆モータープーリのタクト運転につきましては、全機種対応しておりますが、
極端に頻度が高い場合、モータープーリの寿命が短くなります。

※最短タクトの目安として、〈1分間に3回電源ON/OFF〉

例）10秒間電源ON→10秒間電源OFF

1 INV容量の選定

組合せるINVの容量は下表の目安に選定ください。

MP型式（出力）	INV容量（標準）
KMP-A□Z□（40W）	0.1kWモータ用INV
KMP-A013（100W）	0.2kWモータ用INV
KMP-A023（0.24kW）	0.4kWモータ用INV
KMP-A043（0.4kW）	0.75kWモータ用INV
KMP-A103（1.0kW）	1.5kWモータ用INV
KMP-A153（1.5kW）	2.2kWモータ用INV
KMP-A223（2.2kW）	3.7kWモータ用INV
KMP-A373（3.7kW）	5.5kWモータ用INV

2 インバータとの組合せにご不安がある場合

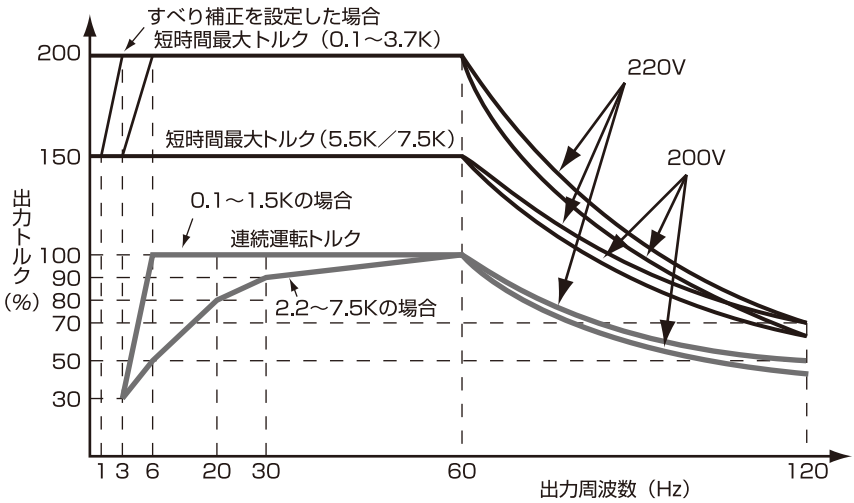
低周波域でのトルク低減、始動時のトルク不足、あるいは、インバータ制御特有の耳ざわりなモータからの高周波音のご心配がある場合は、これ等の改善を目的として造られたベクトル制御方式のインバータを採用ください。例として、三菱E500シリーズを示します。

・3Hzより200%の始動トルクが得られます。
・6Hzより100%の連続運転トルクが得られます。
・騒音は商用電源での運転音に近い音感が得られます。

注1）ベクトル制御モードを適用する場合には、以下の制約条件があります。
・モータの容量がインバータ容量と同等か1ランク下までの、標準モータ（0.1kw以上）。
・単機運転（インバータ1台にモータ1台運転）であること。
・インバータとモータ間の電線長は最大で30mまで適用できます。

基底周波数60Hzのトルクを基準とした場合

出力トルク（%）はモータの60Hz時定格トルクを100%とします。



3 インバータとの組合せご使用の注意事項

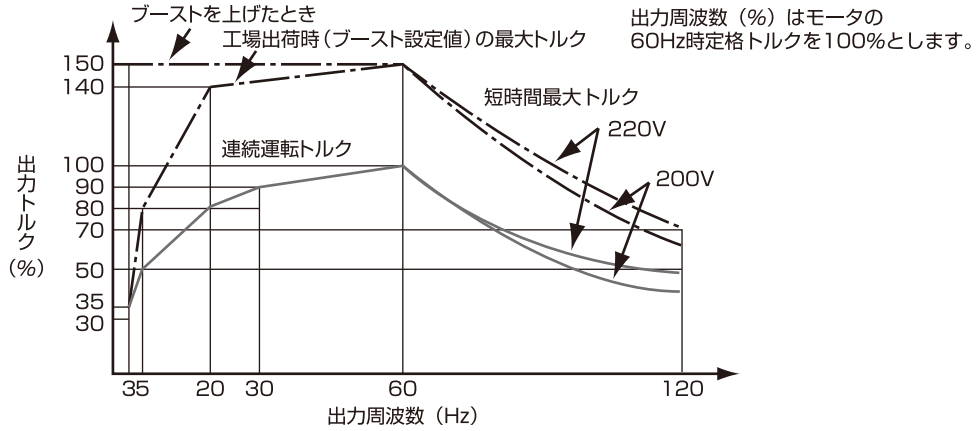
・標準モータをインバータで運転すると、商用電源で運転した場合にくらべ、モータの温度上昇が若干高くなり、連続運転トルクに制限があります。また、低速では冷却効果が低下しますので、モータの出力トルクを低減してください。
・400V級モータをインバータ駆動する場合、配線定数に起因するサージ電圧がモータの端子に発生し、その電圧によってモータの絶縁を劣化させることがあります。インバータの2次側に、モータの端子電圧が850V以下となるようなサージ電圧を抑制するためのフィルタの接続をお勧めします。（三菱製であればサージ電圧抑制フィルタ（FR-ASF-H）をインバータの2次側に接続してお使いください）
・インバータ内にモータ焼損保護用電子サーマルが内蔵されていますが、動作しない場合があります。
モータ焼損保護にはサーマルリレーの取付（インバータ2次側）をお勧めします。

※Ø114三相400V級モータープーリは、インバータが使用出来ません。

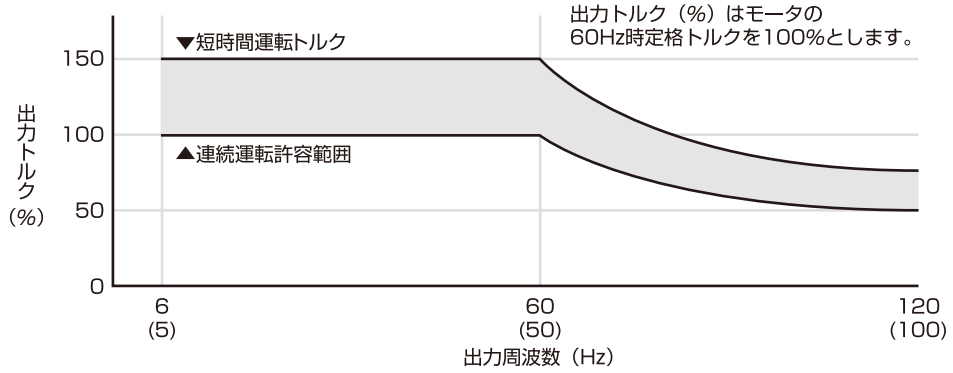
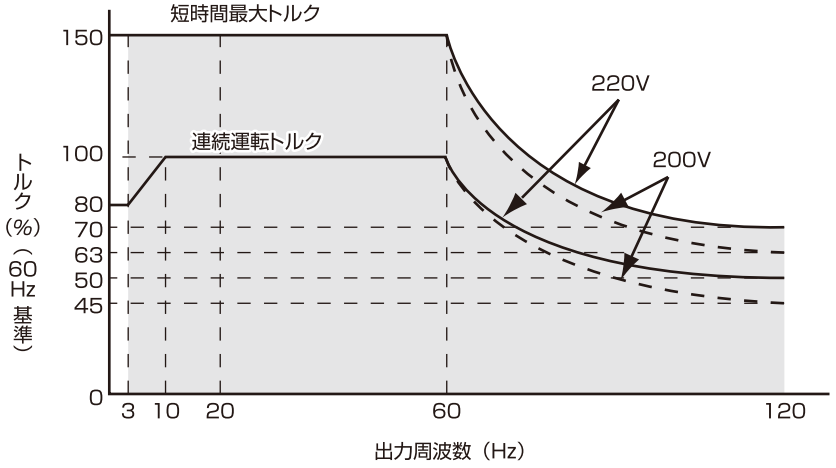
※使用可能範囲は、20Hz～80Hzとなります。

※参考
ベクトル制御方式のインバータより安価なものでも
・3Hzより150%の始動トルクが得られます。
・20Hzより100%の連続運転トルクが得られます。
・騒音は商用電源での運転音に近い音感が得られます。

（例）
三菱S500シリーズ（0.1～3.7K）



富士FRENIC-Miniシリーズ（0.1～3.7K）



日立L200シリーズ（0.2～3.7K）